

[研究報告]

## 作業療法臨床実習におけるルーブリック評価の意義と課題

山 野 克 明

Significance and Agenda for Rubric Use during Clinical Occupational Therapy Student Internships

Katsuaki YAMANO

### 要旨

本研究の目的は作業療法士養成課程における臨床実習の成績評価として使用したルーブリックについて、その意義と課題を明らかにすることである。対象は4年次開講の地域実習における臨床実習指導者36名と、実習を受講した大学4年次学生43名である。方法は双方に対し郵送法もしくは留め置き法でのアンケート調査を行った。

アンケートの結果から、ルーブリック評価の意義として二点が挙げられた。まず、評価項目および評価基準を明確化したことで到達すべき目標と目標達成に向けた実習の方法を臨床実習指導者と学生が共有できるようになった。そして成績評価の公平性を臨床実習指導者と学生の双方が自覚できるようになった。一方、ルーブリック評価の課題として大学教員、臨床実習指導者、学生との三者間でルーブリックの評価項目ならびに評価基準に関する相互理解が十分とは言えないことが明らかとなった。

今回の調査を通して、ルーブリック評価に対する三者間での相互理解を深めるための取り組みが必要と考えられた。

キーワード：作業療法 臨床実習 ルーブリック アンケート調査

### I. はじめに

本研究の目的は作業療法士養成課程における臨床実習の成績評価として使用したルーブリック評価について、その有用性と課題を明らかにしようとすることである。

作業療法士の全国的な専門職団体である日本作業療法士協会は、臨床実習の指導に関して『臨床実習の手引き』を発刊している。現在発刊されている第4版<sup>1)</sup>を概観すると、臨床実習の教育評価では「臨床実習指導者と学生が密なコミュニケーションをとりながら実習の目標達成度や実習生の成長過程を確

認できる形成的評価が望ましい」と記されている。

ただ、作業療法士養成課程における臨床実習の成績評価については、わが国における作業療法士の養成教育が開始された後の早い段階からその問題点が指摘されていた。例えば、上田ら<sup>2)</sup>は作業療法士の養成課程が開始されてから3年後になる1969年の時点で、臨床実習の評価には具体性を欠く評価項目があり評定の判断が主観的になりやすい点を指摘している。

富岡<sup>3)</sup>はわが国で初めて作業療法士の養成を始めた養成校で用いられている臨床実習の評定表を紹介している。このなかで、富岡は<sup>3)</sup>実習生の基本態度、

観察と評価、治療プログラム、患者との治療関係、教える能力、コミュニケーションの5項目について、指導や助言をほとんど必要とせずすぐれた成果を挙げている優れた評定から緊密な指導を受けながらも教育目標（水準）に達しないとする不合格までの5段階評価を用いていることを紹介していた。その上で富岡<sup>3)</sup>は臨床実習における評定の観点が臨床実習指導者によってまちまちであり、評価の必要性や評価項目に対する異議など臨床実習指導者側からさまざまな問題点が提起されていることを報告している。

これらの問題点に対し、杉原<sup>4)</sup>は評価表の全国統一化を目指した活動を展開し、1979年までに評価表の統一化がはかれたことを報告している。杉原<sup>4)</sup>が報告した「統一化された評価表」は、評価項目が6分野（評価、治療計画、治療実施、記録報告、職業人としての適性、管理運営）で構成されている。そして評価基準については、学生が実習中に一人でできる割合（9割以上、7割程度、5割程度、3割程度、全く行えない）の5段階で採点する形となっている。

しかし、そのような統一化に関する報告の後においても、臨床実習における成績評価の問題は少なからず指摘されていた。例えば、長谷川ら<sup>5)</sup>は養成校と指導者との間で実習目標や実習到達レベルが合意できていないために、臨床実習指導者の要求水準にばらつきが多いため明確かつ客観的に評価できる評価項目および基準の必要性を指摘している。また、中川<sup>6)</sup>も明確でない到達目標をそのまま基準において評価しようとする点や、学生の合否判定が重視され形成的評価が不十分であることを指摘している。

そのような中、作業療法士の養成教育を含む大学教育では2008年12月14日に文部科学省中央教育審議会において「学士課程教育の構築に向けて」<sup>7)</sup>の答申が公表された。そこでは、入学時からの過程における成績評価に関する厳格化が課題として挙げられ、成績評価基準の策定と明示が具体的な改善策の一つとして明記された。さらに、2012年8月28日に中央教育審議会が公表した「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け主体的に考える力を育成する大学へ」<sup>8)</sup>の答申では、学士課程教育の質的評価を図ることが求められることが指摘され、成績評価方法の一つとしてルーブリックが挙げられた。

臨床実習は臨床での適応能力を向上させることを

目的の一つとする。しかし、知識量と技術的の双方ともに未熟である学生にとって、従来から設定されている臨床実習指導者の指導量いかんによって成果がきまる評価基準が学生の実習中におけるパフォーマンスそのものを的確に評価しているとは言い難い。臨床実習の目的は一定期間において指導者である作業療法士と学生との間で、実習に内容に関するフィードバックを適宜受けることで学生がパフォーマンスを修正し、その結果として患者や医療職とのコミュニケーションを深め臨床適応能力を高めることである。

その意味で、臨床実習では単に学生が「実習でこれだけできるようになった」というアウトカムだけではなく、「あとどれだけパフォーマンスの質を高めていけば実習の目的に到達できるのか」というプロセスからの評価も含む必要がある。ステイーブンスとレビ<sup>9)</sup>はルーブリックを使用する意義として、タイミングの良いフィードバックと他者とのコミュニケーションを掲げている。臨床実習指導者と学生がルーブリックに示された評価基準を通して対話を重ねながら学生の臨床適応能力を育成し、学生がその成長度合を確認できるプロセスは、まさしく臨床実習の理想的な形であると考えられる。

## Ⅱ. 対象と方法

対象は平成28年度に開講された地域実習において学生の成績を採点した作業療法士の資格を有する臨床実習指導者36名と、地域実習を受講した大学4年次学生43名である。臨床実習指導者と学生との数が一致しない理由は2つある。一つは43名の学生が実習を行った施設は33施設であるが、これは施設によって複数の学生が実習を行ったことを意味する。また、33施設の実習施設の中にはルーブリックを採点した採点者署名欄に複数の署名があった。今回の調査では、ルーブリック評価表における採点者署名欄に署名したすべての臨床実習指導者を対象とした。

方法について述べるにあたり、ルーブリック評価を作成した経緯を説明する。これまで本学の地域実習では、富岡<sup>3)</sup>が報告した助言や指導の量と学生の成果を5段階で示し100点満点に換算する評価表（得点式評価表）を用いていたが、平成28年度よりルーブリック評価（表1）を採用した。評価項目の作成にあたっては、科目責任者である筆者があらか

表1 地域実習のルーブリック評価

評価項目 / 評価基準	高い成果を挙げている	十分な成果を挙げている	成果を挙げている	もう少しの努力があれば、成果を満たすことができる	成果を満たすには根本的改善が必要
1. 対象者やその家族に関心を示し、訴えや思いを聞き、寄り添う姿勢をとる	言動や表情から対象者の思いを表現し、寄り添う姿勢を示す	訴えや思いを表現し、寄り添う姿勢を示す	訴えや思いを想像し、寄り添う姿勢を示そうとする	関心を示すことはできるが、訴えや思いを想像することには多くの指導を要する	対象者やその家族に関心を持つために多くの指導を要する
2. 対象者の生活機能を理解する	対象者の個別性を配慮する形で生活機能について明確に説明できる	対象者の個別性を配慮する形で生活機能について説明できる	対象者の個別性を配慮する形で生活機能について指導者の見解も用いながら説明できる	対象者の個別性を配慮する形で生活機能について指導者の見解も用いながら何とか説明できる	対象者の個別性を配慮する形で生活機能について指導者の見解も用いながらも十分に説明できない
3. 社会モデル（生活モデル）に則った作業療法を理解する	社会モデル（生活モデル）に則った作業療法計画について対象者の個別性に配慮しながら明確に説明できる	社会モデル（生活モデル）に則った作業療法計画について対象者の個別性に配慮しながら説明できる	社会モデル（生活モデル）に則った作業療法計画について指導者の見解を用いながら説明できる	社会モデル（生活モデル）に則った作業療法計画について指導者の見解を用いて何とか説明できる	社会モデル（生活モデル）に則った作業療法計画について十分に説明できない
4. 対象者の社会生活を支援するための作業活動を実践する	対象者のニーズに応じた作業活動を主体的・積極的に実践できる	対象者を支援するための作業活動を主体的・積極的に実践できる	指導者の実践を模倣しながら対象者を支援するための作業活動を実践できる	指導者の実践を模倣しながら対象者を支援するための作業活動を何とか実践する	対象者を支援するための作業活動を十分に模倣できない
5. 地域包括ケアにおける施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を理解する	施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を自ら考察し、明確に説明できる	施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を説明できる	施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を指導者の見解を用いながら説明できる	施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を指導者の見解を用いて何とか説明できる	施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を指導者の見解を十分に説明できない
6. 施設における（作業療法士以外の）他職種の業務と役割を理解する	他職種の業務と役割を明確に自ら整理しながら説明できる	他職種の業務と役割を自ら整理しながら説明できる	他職種の業務と役割について指導された内容を基に区別することができる	一部の職種についてのみ業務と役割を説明することができる	他職種の業務と役割を十分に説明することができない
7. 地域における作業療法士の専門性を理解する	地域における作業療法士の役割を他職種と対比させながら論理的かつ独創的に説明できる	地域における作業療法士の役割を論理的に説明できる	地域における作業療法士の役割を説明できる	地域における作業療法士の役割について、指導者が援助すると説明できる	地域における作業療法士の役割について、指導者の主張を説明できる

じめシラバスおよび筆者が勤務する大学で独自に編集した『臨床実習の手引き（地域実習）』にて公開した一般目標と行動目標（表2）をもとにひな型を作った。その上で、地域実習の科目担当者である作業療法士の資格を有する教員（2名）が校閲をするという形で数回の修正を加えながら完成させた。

地域実習の成績は臨床実習指導者の素点を50点満点、学内報告会での得点を50点満点で設定した。ルーブリックの評価項目は7項目を設定し、評価基準は5段階で評価する形をとり、評価項目ごとに得点を5点もしくは10点満点とすることで50点満点に

なるよう重みづけを行った。筆者の勤務する大学では作業療法士養成課程における臨床実習についてクリニカル・クラークシップ形式での実習を推奨している。そのため、実習内容ではクリニカル・クラークシップで利用される見学・模倣・実施の3ステップを重視し、その進捗度によって評価が上がる形にした。具体的には7つの評価項目すべてにおいてクリニカル・クラークシップの3ステップにおける「模倣」ができれば合格点となる6割（30点）と設定した。具体的には、ルーブリック評価の評価基準における「成果を挙げている」への到達を模倣がで

表2 地域実習の実習目標

## 一般目標

1. 医学モデルと社会モデルとの違いを理解する。
2. 地域におけるリハビリテーション・チームの機能を理解する。
3. 地域における作業療法士の役割について理解する。
4. 環境因子を重視した作業療法の評価と治療を理解する。

## 行動目標

1. 対象者（および家族）のニーズを述べる事ができる。
2. 対象者を取り巻く活動，参加，環境因子（物的・人的），個人因子を説明できる。
3. 対象者のニーズに応答するための作業療法計画立案ができる。
4. 地域における作業療法士の役割について述べる事ができる。
5. 施設の役割に応じたサービス内容の目的と意義について説明できる。
6. 通院・通所・訪問の形態について，その役割と限界について述べる事ができる。
7. ケアマネジメントについて説明することができる。

きているものとして設定した。

地域実習において，臨床実習指導者に対しては，可能な限り1名以上の症例と継続的に関わることと，他職種の業務見学を通して地域における作業療法士の役割に関する理解を深めるための対話的な指導を依頼した。この点も含め，ルーブリック評価の目的と内容については臨床実習指導者と教員が一堂に会して行われる臨床指導者会議の中で『臨床実習の手引き（地域実習）』ともにルーブリック評価表を配布して説明した。併せて，この手引きとルーブリック評価表は実習生にも配布した。

今回の調査においては，臨床実習指導者と学生に対し，それぞれアンケート用紙を作成した（表3）（表4）。そして臨床実習指導者に対しては郵送法を使って調査を行い，学生に対しては学内で留め置き法を使って調査した。アンケートの設問について，臨床実習指導者宛のものにはルーブリックを使っての採点がスムーズに可能であったか否かについて評価項目および測定基準という2つの側面から設問を設定した。アンケートを作成するにあたり，ほとんどの臨床実習指導者はルーブリックでの評価を経験していないことが予測された。そのため，アンケートには自由記載欄を多くしてルーブリックの長所と短所を引き出すことを目的とした。一方，学生も全員がルーブリック評価を目にするのは初めてであった。そのため，アンケートはシンプルにルーブリックに関する良かった点を悪かった点を回答させる形式とした。

倫理的配慮として，臨床実習指導者と学生の双方ともに調査の趣旨を記載した依頼文を添え，調査票の回収をもって同意が得られたものとした。また，本研究については熊本保健科学大学ライフサイエンス倫理審査委員会からの承認（承認番号2016-43）を得た上で実施した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 臨床実習指導者からのアンケート調査結果

臨床実習指導者からは36名中28名から回答があった（有効回答率77.8%）。

##### 1) 設問1 臨床実習指導者の臨床専門領域（複数回答）

日本作業療法士協会が臨床専門領域として区分している4つの領域（身体障害，精神障害，発達障害，老年期障害）においては，老年期障害が13名で最も多く，精神障害8名，身体障害5名，発達障害1名の順となっていた。なお，複数回答が1名，記載なしが2名いた。

##### 2) 設問2 臨床実習指導者の臨床経験年数

28名の平均は14.9±7.9年（M±SD）であり，最長が34年，最短が4年10か月であった。

##### 3) 設問3-1) 過去におけるルーブリックでの実習評価の経験（設問3-1）

過去にルーブリックを使用して臨床実習の評価を経験していた臨床実習指導者は28名中1名のみであった。

表3 実習指導者に向けたアンケートの設問

1. 下記のうち、貴施設の臨床専門領域でもっとも当てはまるもの一つに○をつけて下さい
  - ① 身体障害
  - ② 精神障害
  - ③ 発達障害
  - ④ 老年期障害
2. 記入している方の臨床経験年数をお書き下さい。  
 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月
3. 地域実習のルーブリックについて
  - 1) 今回の地域実習より前に、ルーブリックでの実習評価を経験されたことはありますか？
    - ① ある
    - ② ない
  - 2) ルーブリックの評価項目で採点しづらかった項目があれば、そのすべてに○をつけて下さい。
    - ① 対象者やその家族に関心を示し、訴えや思いを聞き、寄り添う姿勢をとる
    - ② 対象者の生活機能を理解する
    - ③ 社会モデル（生活モデル）に則った作業療法を理解する
    - ④ 対象者の社会生活を支援するための作業活動を実践する
    - ⑤ 地域包括ケアにおける施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を理解する
    - ⑥ 施設における（作業療法士以外の）他職種の業務と役割を理解する
    - ⑦ 地域における作業療法士の専門性を理解する
    - ⑧ 採点しづらかった項目はなかった
  - 3) 2)の設問で①から⑦までのいずれか1つ以上に○をつけた方は、採点しづらかった理由として当てはまると思われるものすべてに○をつけて下さい。
    - ① 評価基準がわかりにくかった
    - ② 実習生を評価すべき基準がルーブリックの項目以外にあった
    - ③ 貴施設の教育方針にそぐわなかった
    - ④ 地域実習で教える範囲を超えていた
    - ⑤ その他（具体的にご指摘下さい： \_\_\_\_\_）
  - 4) 本学の地域実習において、ルーブリックの評価項目および評価基準は適切であったでしょうか。当てはまるもの一つに○をつけて下さい。
    - ① 適切であった
    - ② 適切とは言えない
  - 5) 4)の設問で②に○をつけた方は、適切とは言えない理由として当てはまると思われるものすべてに○をつけて下さい。
    - ① 評価項目の設定が適切でない
    - ② 評価項目ごとの段階づけが明確でない
    - ③ 評価基準の段階づけ（5段階）が多すぎる
    - ④ 評価基準の段階づけが少なすぎる
    - ⑤ 評価基準のレベルが高すぎる
    - ⑥ 評価基準のレベルが低すぎる
    - ⑦ その他（具体的にご指摘下さい： \_\_\_\_\_）
4. その他、ルーブリック評価についてご意見がありましたら、下記に自由に記入下さい

表4 学生に向けたアンケートの設問

## 1. 実習指導者が採点するルーブリック評価について伺います。

## 1-1. 実習指導者が採点するルーブリック評価について、良かったと思われる点は何ですか？

当てはまると思われるものすべての番号に○をつけて下さい。

- ① 良かったと思われる点はなかった
- ② 実習指導者が地域実習でどのようなことを実習生に求めているか、イメージしやすかった
- ③ 実習生が実習時間中にどのように行動すればよいか、イメージしやすかった
- ④ 地域実習で取り組むべき課題を明確にすることができた
- ⑤ 地域実習の事前学習で何をすればよいか、イメージしやすかった
- ⑥ その他（具体的にご指摘下さい： \_\_\_\_\_）

## 1-2. 実習指導者が採点するルーブリック評価について、良かったと言えない点は何ですか？

当てはまると思われるものすべての番号に○をつけて下さい。

- ① 良かったと言えない点はなかった
- ② 実習指導者がどのようなことを実習生に求めているか、イメージしにくかった
- ③ 実習生が実習時間中にどのように行動すればよいか、イメージしやすかった
- ④ 地域実習で取り組むべき課題を明確にすることができなかった
- ⑤ 地域実習の事前学習で何をすればよいか、イメージしにくかった
- ⑥ 実際の実習内容と評価項目とが、かみ合っていないかった
- ⑦ 学生自身にとって評価してもらいたいことが反映されていないかった  
⇒それは何ですか？ 具体的に書いてください：
- ⑧ その他（具体的にご指摘下さい： \_\_\_\_\_）

## 2. 地域実習のルーブリック評価と臨床実習Ⅱの得点式評価表とを比較すると、実習の評価表として適しているのはどちらだと思いますか？ もっとも当てはまるもの一つに○をつけて下さい。

- ① どちらとも言えない
- ② （どちらかと言うと）地域実習のルーブリック評価
- ③ （どちらかと言うと）臨床実習Ⅱの得点式評価表

## 3. 2. で②または③に○をつけた人は、その理由について、当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ① 実習指導者や教員がどのようなことを実習生に求めているか、わかりやすいから
- ② 実習時間帯において実習生がどのように行動すればよいか、わかりやすいから
- ③ 実習で取り組むべき自身の課題が明らかにできるから
- ④ 合否が明確にわかるから
- ⑤ その他（具体的にご指摘下さい： \_\_\_\_\_）

## 4. ルーブリック評価について忌憚のない意見を下記に記入下さい。

4) 設問3-2) および設問3-3) ルーブリック評価で採点しづらかった項目と採点しづらかった理由

28名中17名が何らかにおいて採点しづらかった項目があったと回答していた。採点しづらかった項目としてもっとも多かったのが「地域包括ケアにおける施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を理解する」で17名中13名が採点しづらかったと回答していた(表5)。また、採点しづらかった理由では17

名中9名が「評価基準が分かりにくかった」と回答していた(表5)。

採点しづらかった理由でその他に回答した者の理由に関する自由記載では、「(学生が)説明できたとしても、本当に理解しているとは言い難いことがあった」、「論理的かつ独創的に説明できるという段階づけについて、どのような説明ができれば達成なのかイメージできなかった」、「(実習の)時間が無い内で、全ての項目を指導、助言する時間が持てな

表5 ルーブリックにおいて採点しづらかった項目と採点しづらかった理由

・採点しづらかった項目（複数回答）	
対象者やその家族に関心を示し，訴えや思いを聞き，寄り添う姿勢をとる	2名
対象者の生活機能を理解する	3名
社会モデル（生活モデル）に則った作業療法を理解する	7名
対象者の社会生活を支援するための作業活動を実践する	4名
地域包括ケアにおける施設の役割に応じた社会参加支援のあり方を理解する	13名
施設における（作業療法士以外の）他職種の業務と役割を理解する	2名
地域における作業療法士の専門性を理解する	6名
採点しづらかった項目はなかった	11名
・採点しづらかった理由（複数回答）	
評価基準がわかりにくかった	9名
実習生を評価すべき基準がルーブリックの項目以外にあった	2名
貴施設の教育方針にそぐわなかった	0名
地域実習で教える範囲を超えていた	3名
その他	13名

表6 ルーブリック評価の適切性

・ルーブリック評価は適切であったか？	
適切であった	22名
適切でなかった	6名
・ルーブリック評価が適切でなかった理由（複数回答）	
評価項目の設定が適切でない	0名
評価項目ごとの段階づけが明確でない	0名
評価基準の段階づけ（5段階）が多すぎる	1名
評価基準の段階づけが少なすぎる	2名
評価基準のレベルが高すぎる	1名
評価基準のレベルが低すぎる	1名
その他	3名

かった」といった回答が記されていた。

5) 設問3-4) および設問3-5) 「ルーブリックの評価項目および評価基準は適切であったか」への回答と、適切でなかった理由

28名中22名が「適切であった」と回答しており、全体の78.6%を占めていた(表6)。「適切でなかった」と回答した6名の理由は多岐にわたった。このなかで、「その他」に回答した3名は、「(ルーブリックの評価基準に掲げられた) 高い成果と十分な成果の判断に迷った」, 「他職種との連携に伴った評

価項目や評価基準を, より具体的に検討し充実する必要があった」, 「実習期間と基準のレベルが見合わない」ことを適切でない理由として挙げていた(表6)。

6) ルーブリック評価に関する自由記載

回答欄には15件の記載があった。肯定的な意見としては評価基準の明確さや客観性, 学生との実習の振り返りに有用である意見が見られた。具体的な記載としては「評価基準が具体的に設定されており, 評価しやすかった」, 「セラピストの価値観や経験年

表7 ルーブリックについて良かったと思われる点と良かったとは言えない点

・良かったと思われる点（複数回答）	
実習指導者が地域実習でどのようなことを実習生に求めているか、イメージしやすかった	19名
実習生が実習時間中にどのように行動すればよいか、イメージしやすかった	19名
地域実習で取り組むべき課題を明確にすることができた	21名
地域実習の事前学習で何をすればよいか、イメージしやすかった	8名
その他	1名
・良かったとは言えない点（複数回答）	
実習指導者がどのようなことを実習生に求めているか、イメージしにくかった	10名
実習生が実習時間中にどのように行動すればよいか、イメージしにくかった	8名
地域実習で取り組むべき課題を明確にすることができなかった	3名
地域実習の事前学習で何をすればよいか、イメージしにくかった	11名
実際の実習内容と評価項目とが、かみ合っていないかった	10名
学生自身にとって評価してもらいたいことが反映されていないかった	1名
その他	3名

数に左右されない評価様式である」, 「数字に明確に現れるものでないため, 臨床実習指導者と学生が程よい緊張感の中でフィードバックを行うことができた」というものがあつた。

一方, 否定的な意見としてはルーブリックに示された評価項目と実際の実習内容における不一致に関する者が多かつた。具体的には「3週間の実習で達成的できる内容ではない」, 「学生がルーブリックを理解しているとは思えない」, 「地域包括ケアが十分浸透していない地域では評価しにくい項目がある」という記載が見られた。

## 2. 学生からのアンケート結果

学生からは43名中40名からの回答があつた（回答率93.0%）。

1) 設問1-1. および1-2. ルーブリックについて良かったと思われる点と良かったとは言えない点

40名全員が「良かったと思われる点がある」と回答していた。その中で「地域実習で取り組むべき課題を明確にすることができた」が40名中21名, 「実習指導者が地域実習の中でどのようなことを実習生に求めているかイメージしやすかつた」と「実習生が実習時間中にどのように行動すればよいか, イメージしやすかつた」が40名中19名と約半数に近い割合で良かった点に挙げていた（表7）。

一方, 40名中33名の学生がルーブリックについて「良かったとは言えない点がある」と回答していた。その中で「地域実習の事前学習で何をすればよいか, イメージしにくかつた」と回答した学生が11名いた（表7）。

2) 設問2. ルーブリック評価と得点式評価表との比較

（どちらかという）ルーブリック評価が実習の評価表として適していると回答したのは40名中15名であつた。一方, （どちらかという）得点式評価表が適していると回答したのは40名中13名いた。

3) 設問3. （どちらかという）ルーブリックが適していると考え理由

「実習指導者や教員がどのようなことを実習生に求めているか, わかりやすいから」と「実習で取り組むべき自身の課題が明らかにできるから」に回答した学生は11名ずついた（表8）。

4) 設問3. （どちらかという）得点式評価表が適していると考え理由

回答内容を見ると「ルーブリックが適していると考え理由」と同じ理由を挙げていたが, 「合否が明確にわかるから」に回答した学生が13名中4名いた（表9）。

5) 設問4. ルーブリック評価に関する自由記載

自由記載には40件の回答があつた。肯定的な回答としては, 評価項目や基準が明確に書かれている点



表8 (どちらかという) ルーブリックが適していると考え理由 (複数回答)

実習指導者や教員がどのようなことを実習生に求めているか, わかりやすいから	11名
実習時間帯において実習生がどのように行動すればよいか, わかりやすいから	5名
実習で取り組むべき自身の課題が明らかにできるから	11名
合否が明確にわかるから	1名
その他	0名

表9 (どちらかという) 得点式評価表が適していると考え理由 (複数回答)

実習指導者や教員がどのようなことを実習生に求めているか, わかりやすいから	5名
実習時間帯において実習生がどのように行動すればよいか, わかりやすいから	3名
実習で取り組むべき自身の課題が明らかにできるから	4名
合否が明確にわかるから	4名
その他	1名

に対するものが多くあった。具体的には、「評価表をバイザーの先生と一緒に見ながら毎日のフィードバックを行うことで、実習での進め方や、学習内容を明確にすることができた」、「ルーブリック評価にすることで、点数で評価する際よりもどこまでできているのかを明確にできる」、「(評価項目や段階づけが) 具体的に書かれていたので、全員が同じ物差しで評価してもらえるので良いと思った」、「学生からは何を実習で学ぶのか、何を求められているのかがはっきりしていた。指導者も項目が詳しくあったので、評価する際に役立っていた」という回答があった。

一方、否定的な回答では、「評価にとらわれすぎてしまう」、「実習中に何をすればよいかわからない」、「やるべきことがわからない点があった」、「実習生には難しいところがある」という実習中に行動について明確な指針が得られないという回答があった。また、臨床実習指導者によるルーブリックに対する批判的な見解をそのまま記載している内容が散見された。具体的には、「学生にとってはやるべきことが分かって良かったと思うが、採点の際に実習指導者が採点しづらいと言っていた」、「指導者の(ルーブリックに対する)理解が不十分で正確な評価にならない」、「指導者の先生が模倣と実施の線引きが分かりづらいと言っていた」という回答があった。

#### IV. 考察

##### 1. 臨床実習指導者からのアンケート結果から見たルーブリック評価の意義と課題

今回実施した臨床実習指導者に対するアンケートはルーブリック評価の課題を見出すことに主眼をおいた設問構成とした。そのため、アンケート結果はルーブリックに対するネガティブな意見が多くみられる形となった。その一方で、アンケートにおける自由記載欄には、ルーブリックに対する肯定的な意見が多く記載される結果となっていた。

回答から得られた肯定的な回答をもとにルーブリックの意義を考察すると、ルーブリックの評価項目および評価基準が数値ではなく文字として示されたことに意義を見出すことができる。つまり、実習の中で臨床実習指導者が実習の目標と目標到達のための具体的な方法を見出し、学生との対話(フィードバック)を通して日々確認し合うことができるという点である。ルーブリックでは、学生が説明する内容に対する評価項目が5項目あった。そして、それ以外に具体的な実践行動や姿勢を示すことを評価の対象とした項目が1項目ずつあった。特に、姿勢や実践については、学生自身が実習中においてリアルタイムに行為の適切さを自覚することが難しい。その際に臨床実習指導者がそれらの行為について助言を行い、翌日以降の行動のつなげることができるという点では、臨床実習指導者にとって明確な指導

の指針につながったものと考える。

その一方で、文字としての評価項目や評価基準は、指導の方向性が具体化かつ明確になった分、得点式評価ではある程度融通がきいていた実習指導における臨床実習指導者の裁量を狭める形になった可能性が有りうる。大学教員はディプロマ・ポリシーをもとにした独自性の高い教育方針に基づいた臨床教育を臨床実習指導者に依頼する。一方で、臨床実習指導者は指導者の専門性や実習施設の特性に応じた指導方針を指導者個人の教育方針もしくは実習施設内で組織的に共有している場合がある。すなわち、臨床実習指導者の教育方針に基づいた実習の達成度を独自の尺度を使って数値化できていたものが、ルーブリックでは大学が示した尺度に合わせなければならなくなったという点である。臨床実習指導者の「評価しづらい」という回答はこのような評価の裁量に関する大学と臨床実習指導者との相違が背景として存在すると考える。

## 2. 学生からのアンケート結果から見たルーブリック評価の意義と課題

学生からの調査結果を見ると、ルーブリック評価の意義と課題について三つのことが言える。一つめは評価項目や基準が学生にとって明確であった点である。二つめは実習地（もしくは臨床実習指導者）による評価の偏りが少ない公平性の担保である。そして三つめはルーブリックに対する臨床実習指導者の理解からくる不安である。

臨床実習は学生が将来作業療法士として臨床に適応するための基礎をつくるための意義もある。そのためには学内で培った知識や技術を簡単に生かすことはできないことを知ることはもちろん、対象者に対する専門職としての行為全体に対する未熟さを学生自身が省察する場でもある。ただ、今回の結果では、合否が明確にわかるという理由で得点式評価表を優位とする回答が出された。教員である筆者の立場としては、学生にとって結果ありきではなく、学生が実習後に臨床現場における貴重な経験を今後どのように生かせるか明確に発言できる形で行動変容することを目指すことが重要であると考えられる。

ただ別の観点で言うと、ルーブリックに示された評価基準や評価項目は、学生が実習での経験を通して、初めてその意味を理解することを許容するものになってしまう。もしそうだとすれば、多くの学生

は評価の意味や意義がわからないまま、取り敢えず合格点を得るためにどうすればよいかを第一義的に考える形で実習初日を迎えることになる。このように考えると、ルーブリック評価について臨床実習においてのみ用いるものではなく、実習につながる専門科目の授業において実習につなげる意味でのパフォーマンス評価を実践することで、学生に対しルーブリック評価の行う意義について理解を促すことが必要と言える。

三つ目に挙げた学生の不安については、学生がルーブリック評価に関する自由記載の中で臨床実習指導者の発言内容をそのまま回答している点に着目したい。つまり、先述した大学と臨床実習指導者とのルーブリックをもととした教育方針の相違に対する指導者の困惑について、学生は自身になされる成績評価の公平性に対する不安として受け止めた可能性がある。

## V. 結語

今回の調査結果から本学の臨床実習におけるルーブリック評価の意義と課題が明らかとなった。ルーブリック評価の意義として二つが挙げられた。一つは評価項目および評価基準を明確化したことで実習において到達すべき目標を臨床実習指導者と学生が共有できるようになった。そして二つめは臨床実習指導者によって偏りのない評価の公平性の担保を臨床実習指導者と学生の双方が自覚できるようになった。

一方、ルーブリック評価の課題として大学教員、臨床実習指導者、学生との三者間でルーブリック評価の評価項目ならびに評価基準に関する相互理解が十分とは言えないことが明らかとなった。今後、臨床実習指導者、学生、大学教員の三者間において臨床実習を通じた教育方針と評価項目および評価基準の共有という点では、大学教員が臨床実習指導者と学生に対し、実習前において十分な理解を得るよう継続的な働きかけが必要である。そのために、臨床実習指導者や学生に対し地域実習の意義について継続的に理解を求めるとともに、ルーブリック評価表の改定を検討する必要がある。

今回の調査を通して、ルーブリック評価に対する三者間での相互理解を深めるための取り組みが必要と考えられた。ただ、今回は1年目の実践であり、

今年度以降もルーブリックにて地域実習の評価を実践するため、調査結果の蓄積を進めながら成績評価のあり方について考えを深めたい。

本研究は熊本保健科学大学2016年度大学教育改革プログラム（登録番号2016-GS-05）の助成を受けて行った。なお、本論文の要旨については、全国リハビリテーション学校協会第30回教育研究大会・教員研修会（2017年8月）および第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（2017年10月）において発表した。

### 謝辞

本稿をまとめるにあたり、ルーブリック評価の実践に理解と協力を頂いた熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の教員の皆様に深謝申し上げます。

### 文献

- 1) 社団法人日本作業療法士協会養成教育部：作業療法臨床実習の手引き，第4版．社団法人日本作業療法士協会，p33, 2010.
- 2) 上田敏，鎌倉矩子，尾林滋子，他：病院におけるPT・OT学生の臨床教育．理療と作療，3：25-32，1969.
- 3) 富岡詔子：臨床実習の現状と問題点．理療と作療，6：19-28，1972.
- 4) 杉原素子：臨床実習における実習学生評価．理療と作療，17：237-246，1983.
- 5) 長谷川昌士，北山淳，高見栄喜，他：総合臨床実習における実習成績の分析．四条畷学園大学リハビリテーション学部紀要，8：51-58，2012.
- 6) 山下昌彦：脱・学生評価（2）実習施設・実習指導者の立場から．セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ，第2版（中川法一編），三輪書店，pp81-85，2013.
- 7) 文部科学省：学士課程教育の構築に向けて（答申），文部科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)（2017年9月29日アクセス）
- 8) 文部科学省：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け主体的に考える力を育成する大学へ（答申），p.20，[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf)（2017年9月29日アクセス）
- 9) スティーブンス・ダネル，レビ・アントニア（佐藤浩章監訳，井上敏憲，俣野秀典訳）：大学教員のためのルーブリック評価入門．玉川大学出版部，pp13-22，2014.  
(平成29年12月25日受理)

## Significance and Agenda for Rubric Use during Clinical Occupational Therapy Student Internships

Katsuaki YAMANO

### Abstract

**Purpose:** The purpose of this study was to clarify the significance and agenda of rubrics with students during clinical occupational therapy internships.

**Methods and Materials:** We disseminated a questionnaire survey concerning rubrics during clinical internships to clinical educators who returned the surveys by mail. For students the questionnaires were returned during their clinical placements. The results of this survey were obtained from 28/36 clinical educators and 40/43 students.

**Results:** Of the educators, 22 responded that rubric items and standards were appropriate for students in clinical internships. Additionally, 17 responded that it was difficult to assess students secondary to uncertainty surrounding one or more items of the rubric. In the student survey, 21 felt students should be able to define how students should engage in internship tasks. Additionally, 11 responded that it was difficult to image what the educator make a request for the student, and lack of consistency between assessment item and practicing in the clinical internship.

**Conclusion:** It came to be able to share between clinical educator and student methods and outcome as clarification item and criteria. Additionally, clinical educator and student came to be able to realize equitability of grade in the internship. On the other hand, there is little consensus as to the significance and application of rubrics among educators, students, and academics. Academic practices should facilitate mutual understanding about roles of rubrics.